

平成30年度

# 当初予算の概要

# 市政運営の基本方針の概要



平成30年3月 玉野市

## 1 はじめに たまのプライド ～誇りを胸に～

私は、平成 17 年 10 月、市民の皆様にご信任をいただいてから、これまでの間、「市民が誇れる郷土・玉野」の実現を基本理念に掲げ、まちづくりに取り組んできました。

この度、市長として 4 期目の市政の重責を担わせていただくことになりましたが、この基本理念に変わりはありません。

「市民が誇れる郷土・玉野」とは、「私たち市民が生き生きと暮らし、玉野はいいところだと胸を張って言えるまちにしてほしい」という、市民の皆様の願いのもと、市民の皆様が主役となりながら、それぞれの個性や特徴を活かし、生きがいに満ちた生活が送れるまちづくりに取り組むことであると考えています。

本市は、造船業を基幹産業とした「ものづくりのまち玉野」といわれる企業城下町であることから、各企業においては、ものづくりのプロが自らの技術や品質に対する自信と誇りを持ち、それらは先輩から後輩へ脈々と引き継がれています。

また、各地域においては、伝統的な祭りや踊りのほか、災害時における自主防災の取組等、これらの活動を支える地域コミュニティによって、市民がお互いに助け合い、支え合う仕組みが構築されています。

これらの伝統や文化等は、それを担う人と技術、経験の蓄積によって、これまで当たり前のように引き継がれてきましたが、今一度、玉野の良き特徴として再認識し、これからも絶え間なく引き継いでいくための人材育成や、さらに磨き上げたものとして未来へ伝え、実践していく、この取組を「たまのプライド」という言葉に込めて、新しいまちづくりを展開していきます。

その一方で、本市の厳しい財政状況を改善し、安定的な行財政運営を行っていくため、昨年度、行財政改革大綱を策定したところであり、公共施設の再編整備や事務事業の見直しといった各種行政サービスの最適化・合理化を進めるとともに、未利用財産の処分やふるさと納税の推進等による自主財源の確保に努めています。

この行財政改革は単なる内向きの削減を進めるものではなく、持続可能な玉野市へ体質改善を図りつつ、その先にある展望を見据え、将来を担う市民のため、未来への投資に充てる財源を確保することを目的として、取り組むものです。

こうした中、昨年 4 月にオープンした「新図書館・中央公民館」においては、指定管理者制度を導入し、TRC玉野による新たなサービスを展開することにより、利用者数は開館後 7 箇月余りで当初の年間目標である 30 万人を超え、来場された方々からも好評を得ています。

また、玉野商業高等学校においては、企業版ふるさと納税を活用し、市内にゆかりのある企業から多くのご支援をいただき、本年 4 月からは玉野商工高等学校として生まれ変わり、「ものづくりのまち」として悲願であった機械科を開設し、新たなスタートを切ることであります。

また、「玉野市総合体育館及び玉野市民総合運動公園」においては、本年 4 月から新たな民間事業者による指定管理が開始となり、民間の経営ノウハウや提案に基づく、さらなる市民サービスの充実が期待されることです。

私は、行政が担う役割として、市民の福祉の向上に寄与することを念頭に置きながら、これまでの既成概念にとらわれず、あらゆる視点からのアイデアやノウハウを結集し、今こそ新たな挑戦や創意工夫を重ねていくことが重要であると感じており、新たな年度においても、市民の皆様や市議会の皆様とともに、未来のためのまちの形を創り上げていきます。

平成 30 年 3 月

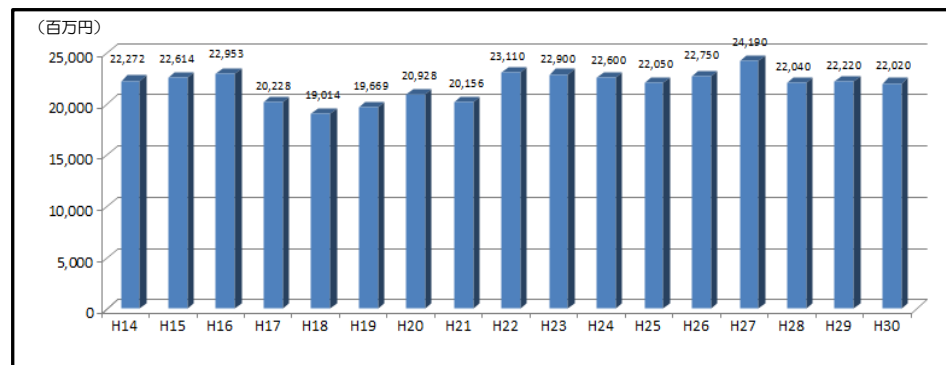
玉野市長 黒田 晋

## 2 当初予算の規模

- 一般会計、特別会計、企業会計を合わせた総額は、対前年度比 3.6%、24 億 4,817 万円減の 648 億 4,077 万円となりました。
- 一般会計は、対前年度比 0.9%、2 億円減の 220 億 2,000 万円となりました。
- 特別会計（6会計）は、対前年度比 6.1%、21 億 628 万円の減となりました。
- 企業会計（3会計）は、対前年度比 1.4%、1 億 4,188 万円の減となりました。

(単位：百万円、%)

区分	平成 30 年度 当初予算	平成 29 年度 当初予算	増減額	伸 率
一般会計	22,020	22,220	▲200	▲0.9
国保会計	7,940	9,596	▲1,656	▲17.3
競輪会計	16,313	16,302	11	0.1
海博会計	53	57	▲4	▲7.0
埋立会計	35	5	30	600.0
介護会計	7,210	7,739	▲529	▲6.8
後期会計	1,048	1,006	42	4.2
特別会計 計	32,599	34,705	▲2,106	▲6.1
病院会計	2,994	2,886	108	3.7
水道会計	2,239	2,401	▲162	▲6.7
下水道会計	4,989	5,077	▲88	▲1.7
企業会計 計	10,222	10,364	▲142	▲1.4
合 計	64,841	67,289	▲2,448	▲3.6



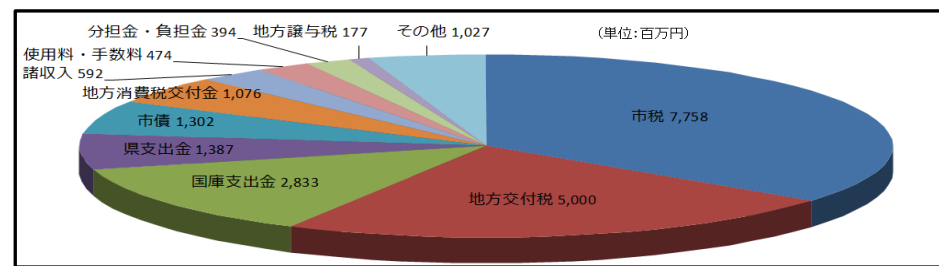
【参考】一般会計の当初予算規模の推移

## 3 一般会計歳入予算の内訳

- 市税については、個人・法人市民税や固定資産税の増収を見込み、全体では、対前年度比 1.5%増の 77 億 5,800 万円を計上しました。
- 地方交付税については、今年度決算見込み及び国の地方財政計画等に基づき、50 億円を計上しました。
- 国庫支出金については、児童手当費負担金及び老人福祉施設建設費補助金の減等により、全体では、対前年度比 2.3%減の 42 億 2,017 万円を計上しました。
- 繰入金については、財源不足を補うため、財政調整基金から 4 億円の取り崩しを含め、対前年度比 18.7%、9,390 万円減の 4 億 778 万円を計上しました。
- 市債については、国の地方債計画等を参考に、予算計上した投資的事業に見合う財源としての市債及び地方交付税の振替措置としての臨時財政対策債を算定した結果、対前年度比で 7.3%減の 13 億 192 万円を計上しました。

(単位：百万円、%)

区分	平成 30 年度		平成 29 年度		増減額	伸 率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
市 税	7,758	35.2	7,643	34.4	115	1.5
地方贈与税・交付金	1,449	6.6	1,427	6.4	22	1.5
地方交付税	5,000	22.7	5,000	22.5	—	—
国・県支出金	4,220	19.2	4,319	19.4	▲99	▲2.3
市 債	1,302	5.9	1,405	6.3	▲103	▲7.3
その他	2,291	10.4	2,426	11.0	▲135	▲5.6
合 計	22,020	100.0	22,220	100.0	▲200	▲0.9



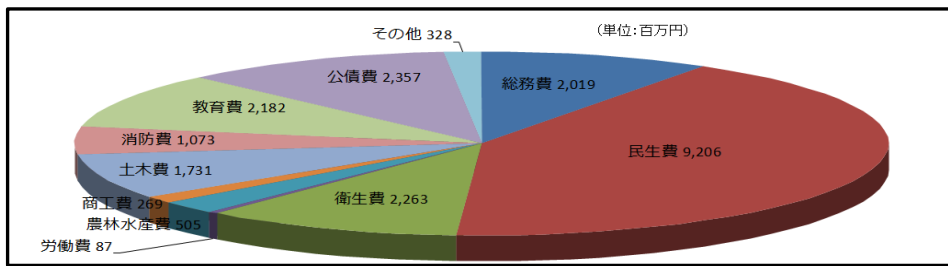
【参考】歳入款別構成図

## 4 一般会計歳出予算(目的別)の内訳

- 総務費は、総合計画策定支援業務委託料等が増となる一方で、ふるさとづくり基金積立金等が減となり、全体では、対前年度比0.9%減の20億1,874万円を計上しました。
- 民生費は、後期高齢者医療療養給付費負担金や介護保険事業会計等への繰出金の減により、全体では、対前年度比2.3%減の92億567万円を計上しました。
- 衛生費は、病院会計出資金や予防接種委託料の減等により、全体では、対前年度比0.8%減の22億6,278万円を計上しました。
- 教育費は、小学校大規模改造事業や機械科施設整備事業の増等により、全体では、対前年度比1.2%増の21億8,171万円を計上しました。

(単位：百万円、%)

区分	平成30年度		平成29年度		増減額	伸率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
総務費	2,019	9.2	2,038	9.2	▲19	▲0.9
民生費	9,206	41.8	9,426	42.4	▲220	▲2.3
衛生費	2,263	10.3	2,282	10.3	▲19	▲0.8
労働費	87	0.4	87	0.4	—	—
農林水産費	505	2.3	527	2.4	▲22	▲4.2
商工費	269	1.2	289	1.3	▲20	▲6.9
土木費	1,731	7.9	1,750	7.9	▲19	▲1.1
消防費	1,073	4.9	1,044	4.7	29	2.8
教育費	2,182	9.9	2,157	9.7	25	1.2
公債費	2,357	10.7	2,293	10.3	64	2.8
その他	328	1.4	327	1.4	1	0.3
合計	22,020	100.0	22,220	100.0	▲200	▲0.9



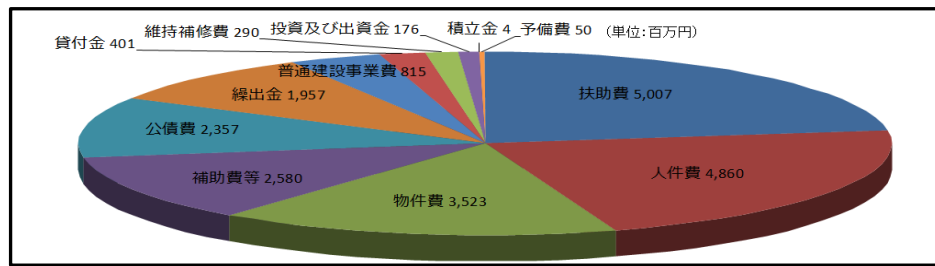
【参考】歳出目的別構成図

## 5 一般会計歳出予算(性質別)の内訳

- 義務的経費は、人件費が対前年度比1.0%の増、扶助費が生活扶助費や児童手当費の減等により、対前年度比1.1%の減となり、全体では対前年度比0.5%増の122億2,366万円となりました。
- 消費的経費は、物件費が戸籍情報システム処理委託料の増等により対前年度比2.6%の増、補助費等が後期高齢者医療療養給付費負担金の減等により対前年度比3.2%の減により、全体では対前年度比0.2%増の63億9,311万円となりました。
- 投資的経費は、既設市営住宅改善工事請負費や中学校大規模改造事業等の減により、対前年度比14.2%減の8億1,527万円となりました。

(単位：百万円、%)

区分	平成30年度		平成29年度		増減額	伸率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
義務的経費	12,224	55.5	12,169	54.8	55	0.5
人件費	4,860	22.1	4,811	21.7	49	1.0
扶助費	5,007	22.7	5,065	22.8	▲58	▲1.1
公債費	2,357	10.7	2,293	10.3	64	2.8
消費的経費	6,393	29.0	6,380	28.7	13	0.2
物件費	3,523	16.0	3,435	15.4	88	2.6
維持修繕費	290	1.3	281	1.3	9	3.2
補助費等	2,580	11.7	2,664	12.0	▲84	▲3.2
投資的経費	815	3.7	950	4.3	▲135	▲14.2
普通建設事業費	815	3.7	950	4.3	▲135	▲14.2
災害復旧事業費	0	—	0	—	0	—
その他	2,588	11.8	2,721	12.2	▲133	▲4.9
合計	22,020	100.0	22,220	100.0	▲200	▲0.9



【参考】歳出性質別構成図

## 6 平成 30 年度重点施策と主要事業

### (1) 新たな総合計画の策定

- ▶総合計画はまちづくり全体の根幹といえる指針であり、市の将来像を描き、その実現に向けた施策展開を各分野において示すものです。
- ▶これまで実施した施策の評価や市民及び市議会の皆様のご意見等を踏まえるとともに、現在取り組んでいる「たまの長期人口ビジョン・たまの創生総合戦略」に掲げた施策や生涯活躍のまちづくりの推進等の新たな施策を盛り込み、平成30年度に策定します。

【主な予算額】・総合計画策定事業 8,000 千円

### (2) 人づくりの推進・教育の充実

#### ① 玉野商工高等学校機械科の新設

- ▶「ものづくり玉野」を支える人材不足や人口減少に歯止めをかけるとともに、子どもたちへ将来の選択肢や可能性を広げることが目的として、地元企業からの強力なバックアップを頂き、平成30年4月から玉野商工高等学校として機械科を新設します。
- ▶ビジネス情報科の充実も含め、「人・もの・未来」をつくる魅力ある市立高校としての取組を推進し、地域で活



機械科イメージ

躍する人材育成を図っていきます。

【主な予算額】・機械科管理運営事業 2,963 千円  
・機械科施設整備事業 13,325 千円  
・高等学校教育振興事業 798 千円

#### ② キャリア教育等の充実

- ▶発達段階に応じた教育の充実が重要であることから、身近な大人の仕事や地域の産業に関心を持ち、自分の夢の実現に向かって歩む子どもを育成するため、学校と地域住民、地元企業が連携・協働しながら、職場見学やインターンシップ、ボランティアの機会を一層推進し、地域を学びの場とするキャリア教育に取り組んでいきます。

【主な予算額】・中学校キャリア教育推進事業：591 千円

#### ③ たまの版生涯活躍のまち(CCRsea)の推進 ～生涯活躍のまち人材育成事業～

- ▶本市の特性である瀬戸内海の景観や過ごしやすい気候、また、強みである「アート」「海・港・船」「ものづくりのまち」といった地域資源を最大限に活かし、本市への人の流れと新たなしごとづくりへの取組として、「たまの版生涯活躍のまち(CCRsea)」を推進します。
- ▶若い世代の就業機会の拡大や新たな生涯活躍の場の創出として、たまの版生涯活躍のまち(CCRsea)では、医療、福祉・介護、観光など幅広い分野での新規産業の創出や、地元企業と連携しながら即戦力となる人材の育成に取り組めます。



砂浜を利用した健康プログラム

【主な予算額】・生涯活躍のまち人材育成事業委託料：20,000 千円

### (3) 公共施設の再編整備

#### ① 新市民病院建設への取組

- ▶平成 28 年度に策定した「玉野市新病院基本構想」を基に、建設場所や適切な病床数、規模・機能など、基本計画の策定を進めます。
- ▶市民病院の運営形態については、包括協定を締結している医療法人平成博愛会との協議を進め、将来的な医療提供体制として、市内医療機関との連携体制の構築も視野に入れながら、機能の集約化を目指し、あらゆる可能性について検討を進めます。



玉野市民病院

#### ② 給食センターの整備

- ▶市内 2 箇所の給食センターの老朽化に伴い、両施設の統合整備に向け、平成 29 年度に「玉野市学校給食センター整備手法等検討調査」を行い、施設の規模や機能など、目指すべき給食センターの在り方を示す基本構想のとりまとめを行いました。
- ▶平成 30 年度は、この調査結果に基づき、本市に適した事業手法による給食センター整備に向けた取組を進めます。

#### ③ 体育施設の民間活力導入

- ▶玉野市総合体育館及び玉野市民総合運動公園については、平成 30 年度から新たな指定管理者である「共同企業体玉野スポーツネットワークJV」との連携のもと、市民サービスの向上を図ることにより、市民に愛される施設を目指します。

- ▶北体育館についても、民間活力を活かし、スポーツ・レクリエーション施設としての役割を維持しつつ、より多くの人が集まる健康増進・交流促進の場として、整備手法も含めた新たな活用の検討を進めます。



北体育館

【主な予算額】・体育施設管理業務委託料：91,950 千円

#### ④ 廃棄物広域処理への取組

- ▶廃棄物の焼却施設である東清掃センターは、老朽化が進んでいるため、岡山市及び久米南町との新たな広域的な処理施設の稼働に向けて、平成 29 年度から広域処理に関する事務を岡山市へ委託しており、平成 30 年度中には、建設場所の最終候補地が選定されることとなっています。
- ▶広域処理に移行するまでの期間においても、廃棄物を適正に処理し、市民の安心かつ衛生的な生活を確保するため、現在稼働中である東清掃センターの適正な維持管理に努めます。

【主な予算額】・廃棄物広域処理事業：12,547 千円

・東清掃センター施設修繕事業：150,000 千円

#### ⑤ 公民館及び市民センター機能の集約化

- ▶市民センターが担っている支所・窓口機能及び公民館・地域活動支援機能について、マイナンバー制度の活用によるコンビニ交付、収納サービスの導入や公民館の代替施設として学校教育施設を活用するなどの集約化の手法等、効率的かつ効果的なサービスの提供方法について、引き続き検討、協議を進めます。

## ⑥ 消防本部及び消防署の運営形態の改革

- ▶消防本部及び消防署の職員数及び班体制の運営形態を見直し、人件費の削減を図っていくとともに、あわせて中長期的な観点から、今後の人口推移に伴う救急出動件数の動向や通信指令システムの更新計画及び他市の配置状況の調査等を踏まえ、本部及び出張所の再編整備の検討を進めます。

## (4) オンリーワンのまちづくり

### ① たまの版生涯活躍のまち(CCRsea)の推進

- ▶生涯活躍のまちづくりについては、平成 28 年度に策定した「たまの版CCRsea 基本構想」に基づき、主体的な役割を担う事業推進主体を選定しました。
- ▶平成 29 年度は、事業推進主体とともに、「ヘルスケアサービスの開発」「ローカルブランディングの確立」「地方創生人材の育成」の 3 つの取組について、個別事業の検討、関係機関や団体との調整を行った上で、平成 30 年度以降の具体的な取組内容を掲げる「たまの版生涯活躍のまち基本計画」を策定しています。
- ▶本市が進める生涯活躍のまちづくりは、高齢者や移住者のみならず、学び、働く若者や地域住民、障害を持つ人、事業者等がそれぞれの知見や知識、技術等を活かして活躍し、「新しいことが始まる」という「わくわく」感を市内全体に広げていく取組です。本市に活気と新たな価値や魅力を生み出し、地域経済の



健康プログラム（サイクリング）

好循環を生み出していくような本市独自のまちづくりを推進していきます。

【主な予算額】・事業推進主体運営補助：22,000 千円

・ローカルブランディング推進事業：15,000 千円

### ② 若者発信の新たなまちづくり

- ▶就職先のミスマッチングやまちの賑わい不足などにより、若い世代が市外に転出している現状が大きな課題となっていることから、それらの解決につながるよう、若者がふるさとの良さを知り、郷土愛を育んでいく施策が重要です。
- ▶近年では、「たまの港フェスティバル」や「UNO I CHI」、「瀬戸内国際芸術祭」といったイベントに市内の多くの若者や学生が参加しています。
- ▶また、「おかやまビーチスポーツ協会」が渋川海岸等をフィールドとして、様々なイベントを通じた海の魅力発信等に向けて活動を進めています。
- ▶若者の自由な発想による新たなまちづくり活動について、各種団体と連携、調整しながら、円滑な事業展開が図られるよう支援していきます。



UNOICHI～海の見える港のマルシェ～

## (5) 行財政改革の推進

### ① 行政サービスの最適化・合理化

▶本市が単独で実施している事業について、妥当性・効率性・有効性等の観点から内部評価を行うとともに、一部の事業については有識者や市民による公開事業評価を行い、平成 29 年度に「廃止・見直し・継続」の 3 区分に分類しました。

▶平成 30 年度は、この結果を踏まえ、「廃止・見直し」と区分した事業について、事業の在り方の検討を行います。また、公開事業評価についても内容を改善しながら引き続き実施します。



公開事業評価

### ② 持続可能な財政基盤の確立

▶平成 30 年度から、広報たまのやホームページ等に掲載する既存の広告媒体に加え、全庁的に新たな広告対象媒体を洗い出した結果を踏まえ、広く事業者へ利用を促し、広告料収入の増加に努めます。

▶ふるさと納税の推進については、市内の魅力ある商品を新たに掘り起こしながら、寄附額の安定的な確保に努めるとともに、企業版ふるさと納税の推進についても、市長自らのトップセールスにより、引き続き積極的に取り組みます。

### ③ 経営改革の推進

▶「経営改革の推進」については、職員を最大の経営資源と捉え、その力を最大限に引き出す仕組みづくりです。職員の自発的活動は、市役所内部の活性化のみならず、市全体への明

るい話題の提供や新たな市民サービスの向上、まちの活気につながる波及効果が期待されることから、引き続き強力に取り組みます。

## (6) 子育て・福祉・健康増進

### ① 玉原認定こども園の開設

▶平成 26 年 3 月に策定した「玉野市幼保一体化等将来計画」に基づき、平成 30 年度は、玉原保育園及び玉原幼稚園を統廃合し、認定こども園として設置するとともに、大崎地区、鉾立地区における幼稚園機能のあり方など、その他の地区についても引き続き検討を進めます。

### ② 子育て世代包括支援センター事業の実施

▶妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する様々な悩み等に円滑に対応するための子育て世代包括支援センター事業について、すこやかセンター内に専用の相談室を設置します。

▶この事業により、相談者のプライバシーを確保し、相談しやすい環境を整備することで、相談支援の強化や関係機関とのネットワーク構築が図られるとともに、市民にとっては、保健師や助産師によるきめ細やかなアドバイスを受けることができるなど、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を行います。



すこやかセンター

【主な予算額】・子育て世代包括支援センター事業：4,558 千円



### ③ 健康マイレージ事業の推進

- ▶健康マイレージ事業については、利用者への特典として、平成 30 年度からは市内で使える商品券を加えることとし、健康増進と市内消費の活性化に資する取組を引き続き推進します。

【主な予算額】・健康マイレージ事業：597 千円

### ③ 消防車両の更新

- ▶本市消防力の維持を図るため、和田出張所のポンプ自動車の更新を行います。

【主な予算額】・消防車両等更新事業：43,101 千円

## (7) 安心安全のまちづくり

### ① 地域防災計画に基づく業務継続計画の構築

- ▶本市では、防災対策を定めた計画として、「玉野市地域防災計画」を策定していますが、今後は、この防災計画を確実に実行していくため、大規模災害の発生によって地方公共団体が被災した際に、優先すべき業務をどのように継続していくか、また、その体制等について具体的に定めておく必要があります。
- ▶南海トラフ地震の発生が懸念されている現在、特に重要な指針であると認識しており、平成 30 年度では、他市における大規模災害の教訓を踏まえ、業務継続のための指針策定に向けた検討を開始します。

### ② 浸水被害の軽減対策

- ▶地域の防災・減災対策として、平成 30 年度は、後閑地区の福浦下ポンプ場と築港地区の広瀬ポンプ場において、浸水被害を軽減するため、ポンプの交換を行い、排水能力の増強を図ります。

【主な予算額】・河川排水路維持管理事業：25,000 千円

## (8) 産業振興

### ① 雇用や新規創業に係る中小企業等への支援

- ▶平成 30 年度は、市内において製造業を営む中小企業が生産設備の導入を行い、雇用が増加した場合、もしくは既存事業以外の新たな分野へ進出するための生産設備導入を行う場合の補助として実施する「玉野市中小企業生産設備導入事業」の予算を増額するなど、市内中小企業への支援を強化します。
- ▶飲食業及び小売業、宿泊業に関する店舗を開業する新規創業者への支援や企業の人材育成及び販路開拓等に向けた取組を支援する事業についても引き続き推進します。

【主な予算額】・中小企業設備導入促進事業：6,000 千円

・若者雇用創出型創業応援事業：7,500 千円

・中小企業ステップアップ支援事業：4,000 千円

### ② 瀬戸内国際芸術祭に向けた取組

- ▶「瀬戸内国際芸術祭 2016」では、事業者と地元婦人会が連携して、「うのののり弁」や「サムライおむすび」を開発し、宇野港での観光客のおもてなし活動を行ったところですが、平成 30 年度では、全市的な広がりを目標に、様々な団体と地域の協働により、新たな食のプロデュースを展開し、本市の魅力アップを図ります。

▶教育的観点からの取組として、「宇野港を教育フィールドに」との考えの下、中高生が積極的におもてなし活動に参加したり、自分の将来や地域の未来を考えながら、主体性や国際性など、社会で必要な力を身に付けることができるよう、「たまのステューデントガイド」育成の取組を推進します。



高校生による外国人おもてなし活動

### ③ みやま公園の魅力化

▶みやま公園は、これまで憩いの場や健康づくりの場として市内外から多くの方が訪れていますが、平成 30 年度は、遊具のリニューアル等を検討することにより、乳幼児を抱える若い家族層にもさらに利用しやすい施設として工夫するなど、より幅広く市民に親しまれる公園として整備します。

【主な予算額】・みやま公園整備事業：19,000 千円

### ④ 渋川・王子が岳地区の活性化

▶渋川・王子が岳地区では、渋川・王子が岳活性化協議会での取組を進めるとともに、美しい景観はもとより、様々なビーチスポーツ、ボルダリングなどヘルスツーリズムの要素を取り入れた着地型観光の推進を図ります。

▶渋川海岸については、東京オリンピック事前キャンプ誘致のため、平成 29 年 12 月に「渋川ビーチスポーツキャンプ誘致実行委員会」が設立されました。この委員会と連携しながら渋川地区の活性化に努めます。



渋川海岸

### ⑤ イノシシ対策の強化

▶イノシシの対策は、防護柵による集落への侵入防止と、駆除による個体数の抑制の両面を強化する必要があり、防護柵については、これまでワイヤーメッシュ柵の設置に対して補助を行ってきましたが、平成 30 年度からは、農地を直接防護するための電気柵の設置に対しても補助を行います。

▶イノシシの駆除については、捕獲わなの増設とそれに伴う人員の増強を行うなど、駆除体制の強化を図り、イノシシ被害の軽減に努めます。

【主な予算額】・鳥獣被害対策事業：26,977 千円

### ⑥ 農林水産振興センターの運営改善

▶「有限会社みどりの館みやま」は、平成 29 年度に経営改善策の一環として、売場のイメージアップを図るための農産物直売施設の改装や屋外ブースの新設を進め、平成 30 年 4 月からリニューアルオープンします。

▶リニューアルオープンに併せて、従来は月曜日及び火曜日を休館日としていたところを火曜日のみを休館日とする、週 6 日営業に拡充することにより、集客力のアップに努めます。

▶「みどりの館みやま」と農業者が連携して農業体験などを実施し、農村地域に消費者を呼び込み、地域の活性化につなげる取組を進めます。



農林水産振興センター（みどりの館みやま）

【主な予算額】・中山間地域食と農村交流促進事業補助：5,500 千円

## ⑦ ほ場整備事業の支援

▶用吉・豊岡地区については、農業者の経営基盤の安定化に向け、県事業として、ほ場整備が進められています。平成 29 年度は本市と地元地区において換地計画を策定したところであり、平成 30 年度の着工、平成 34 年度の完成に向けて事業を推進します。

【主な予算額】・経営体育成基盤整備事業：13,686 千円

## ⑧ 持続的な漁業経営への支援

▶漁業振興として、平成 30 年度に石島の給油タンクの改修工事に対し支援を行うとともに、種苗放流や藻場の再生事業を促進し、持続的な漁業経営に資するよう努めていきます。

【主な予算額】・漁業振興特別対策事業：3,376 千円  
・水産資源回復推進事業：3,457 千円

# (9) 公共交通

## ① 持続可能な公共交通網の構築に向けた検討

- ▶本市は、シーバス・シータクそして石島航路による公共交通システムを導入し、高齢者等の移動手段の確保と交通空白エリアの大幅な解消を図ってきたところであり、これらの公共交通の利用者数も順調に推移していました。
- ▶平成 30 年度には、シーバス車両のうち、1 台を利用者が容易に乗り降りできるノンステップバスに更新し、利用者の増加に繋がります。
- ▶しかしながら、平成 30 年 2 月に両備ホールディングスが運行する路線バス 78 路線のうち、赤字幅の大きい 31 路線

の廃止届を中国運輸局に提出したとの、突然の発表がありました。多くの市民の生活手段として利用されているこれらの路線が廃止となれば、影響は非常に大きいものと危惧しており、今後も維持していただけるよう、両備ホールディングスや関係機関に強く要望していきます。



シーバス

【主な予算額】・公共交通運営事業：71,341 千円

## ② 宇高航路存続への取組の実施

- ▶宇高航路は、宇野-高松間の人流及び物流に重要な役割を果たしており、強風時の瀬戸大橋に代わる代替輸送や災害時の緊急輸送、さらには大型荷物の輸送をはじめ、自転車の運搬などフェリー航路でしかできない役割を担っています。
- ▶本市は、これまでと同様に、岡山県、香川県、高松市と連携し、航路存続への支援を進めていくとともに、国に対しても継続的な支援が受けられるよう、粘り強く要望を行うなど、航路の存続に向けて最大限の努力を続けていきます。



宇高航路

【主な予算額】・宇高航路安全航行確保事業補助：3,750 千円

## (10) 協働のまちづくり

- ▶平成 28 年度に策定した「玉野市協働のまちづくり行動計画」では、町内会や自治会など住民自治組織が行う活動や、ボランティア活動に代表される社会貢献活動などの自主的な活動といった地域自治活動を継続、活性化するための人材育成に取り組むこととしています。
- ▶平成 30 年度から、地域人づくり大学の取組を充実させる形で、地域自治活動の主体となる組織の強化や、持続可能な社会づくりの担い手を育成するための教育である ESD の視点を取り入れ、これからの協働に必要なスキルを備えた人材を育成するため、連続講座を新たに設けます。



地域懇談会

## 7 おわりに

現在、本市は、厳しい財政状況に直面している一方で、人口減少に歯止めをかけるべく、地方創生の実現に向けた新たな施策展開が求められています。

このような中、この度の玉野商工高等学校への機械科新設の取組では、市内の企業における深刻な人材不足や若者の流出という課題に対し、「産・官・学」の強力な連携により取り組んだ結果、地域の多くの企業から賛同を得て、事業の推進が図られ、全国でも例を見ない、地方創生の好事例として注目を受けています。

私は、直面した課題に対して、行政のみで解決を図るのではなく、様々な方々と力を合わせ、知恵を絞り、協働して進める取組こそが、まさに本市の成長、発展の鍵となるのではないかと実感しています。

私は、市長に就任してから、市民の皆様が主役となるまちづくりを進めることを信念とし、様々な場面での市民参加、行政情報の積極的な公開、市民活動の支援などに取り組んできました。

その中で、とりわけ「本市の魅力を十分発信できていない」と言ったご意見を多くいただいています。

本市は、温暖な気候と瀬戸内の風光明媚な景色に包まれ、大きな災害もなく、生活しやすい環境にあり、また、先人たちにより築かれてきた文化や伝統があります。この地域資源といえる玉野のかけがえのない財産を最大限に活かし、市民の皆様が「たまのプライド」を抱けるよう、新たな施策展開に積極的に取り組んでいく決意です。

財政健全化の取組は、まだまだこれからの道のりではありますが、その先にある展望を見据えながら、そして、皆様との対話や交流を重ね、未来のための新しい玉野市のまちづくりを推進します。